

Course number		U-LAS70 10001 SJ50					
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：土木技術の安全・安心と法工学入門		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Engineering Professor,SUGIURA KUNITOMO			
	ILAS Seminar :Safety and Security of Civil Engineering Technology and Introduction to Forensic Engineering						
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences		Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1	
Class style	seminar (Face-to-face course)		Year/semesters	2024・First semester		Quota (Freshman)	10 (10)
Target year	1st year students	Eligible students	For all majors		Days and periods	Mon.5	
Classroom	(Main Campus)				Language of instruction	Japanese	
Keyword	技術 / 歴史 / 事故 / 調査 / 法工学						
[Overview and purpose of the course]							
<p>社会経済活動の発展，人民の生活の質向上に向けて膨大な量の社会基盤施設が整備され，ストックされてきた．社会基盤施設の設計・製作・架設・維持管理作業においては，絶え間ない「技術の質保証・持続性」，「事故（災害）調査」，「新技術の受容性とリスク」に関して検討してきた歴史がある．今後も安心・安全な暮らしを確保するためには，総合的な技術に基づく国造りを目指す必要があり，工業技術を専門とする研究者・実務者のみならず行政・経済の専門家あるいは法曹実務家との協働作業，すなわち『法工学』が重要である．本授業では，専門分野の横断的な考察を行う入門ゼミである．</p> <p>授業では，</p> <p>(1)道路・鉄道，電気・水道，治山・治水などに関連した土木技術の基礎的な知識を学ぶ．</p> <p>(2)様々な時期の事故・災害を比較し，工業技術と暮らしの安全・安心を考える．</p> <p>(3)京大近くの身近な社会インフラの安全・安心について検証を行う．</p> <p>(4)受講生それぞれが対象を選び，日常に潜む危険を調査し，独自のハザードマップなどを作成し発表を行う．</p> <p>技術史に基づいた社会インフラの在り方，この授業を通じて，安全な日常を過ごすための自助・共助・公助などの社会形成の重要性を学んで欲しい．</p>							
[Course objectives]							
現実社会の中で，生活を支える技術を見出す観察眼と好奇心を涵養する．利用できる情報を収集し考察を深めることで，自主的に課題に取り組む能力を養う．							
[Course schedule and contents)]							
第1回 授業の概要説明 第2回 土木技術の概論（その1：道路・鉄道・電気・水道などのライフライン） 第3回 土木技術の概論（その2：都市計画・国土計画など） 第4回 構造物の技術史 第5回 構造物の事故と原因，および法工学 第6回 （実内実験）構造物を構成する材料を理解する							
<div style="text-align: right;">Continue to ILASセミナー：土木技術の安全・安心と法工学入門(2)</div>							

ILASセミナー：土木技術の安全・安心と法工学入門(2)

- 第7回 (実内実験) 構造物の応答を理解する
第8回 歴史的建造物の保全の現状
第9回 京都市内の社会インフラの現地調査(その1)
第10回 京都市内の社会インフラの現地調査(その2)
第11回 社会インフラを通して自助・共助・公助を考える
第12回 成果発表会(その1)
第13回 成果発表会(その2)
第14回 総括
第15回 フィードバック

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

期末レポート30%，平常点（出席状況，発表，コメントペーパー）70%

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

(References, etc.)

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

各自で対象を選び，京都大学以外で収集した情報をもとにした発表をするので，これらの準備作業が予習に相当する．発表の時に出的意見をもとに，さらに分析や調査を深めて期末レポートとして作成することが復習となる．

[Other information (office hours, etc.)]

京都市内のフィールドワーク・室内実験を予定しているので，学生教育研究災害傷害保険などの傷害保険へ加入すること．またフィールドワーク場所へ移動する費用（交通費）などは個人負担になります．